

滋賀県の観光資源発掘に向けたセミナーIN彦根市 ~H30.2.19 大学生のアイデアと古民家を活かして~

滋賀県の観光客は、増加傾向にあり、平成28年度には過去最高の5,076万人を記録したものの、外国人観光客は54万人と観光客全体に占める割合は1.0%にすぎないなど、**外国人観光客の取り込みが不十分**となっています。

これらは、滋賀県が琵琶湖を中心とした雄大な自然や豊かな歴史文化資源にも恵まれているものの、広く知られることなく**観光資源を有効に活用できていない**という課題につながります。

大津財務事務所としても滋賀県の更なる観光客誘致を目指し、観光振興を テーマにサイクリングや古民家活用など様々な角度から滋賀県の活性化のお 手伝いをしてきたところです。

こうした中、大津財務事務所に観光振興に関する2つの依頼があり、平成30年2月19日彦根市で「滋賀県の観光資源発掘に向けたセミナー」を開催。学生や地域の事業者の方が一緒に考え、滋賀県の魅力について再認識し今後の更なる可能性を確認できる機会を設けました。

依頼①:大学生のアイデア活用

滋賀中央信用金庫が主催する「君のアイデアが未来をつくる!! 大学によるアイデアコンテスト」において、「地域の課題解決 にむけて」というテーマのもと、びわこ学院大学短期大学部の ゼミ生が「『お宝まちなみ、河五八(かごやん)!』〜新しい 観光コンテンツ〜」というタイトルで地元の観光資源を活かす アイデアを発表し、グランプリ(滋賀県知事賞)を受賞。当提 案は、滋賀県の湖東に集まる3つの重要伝統的建造物群保存地 区を活かす新観光コンテンツを提案したものであり、面白いア

-クショップ 15:50~16:50

2月19日 厚

イデアのため実現に向けて協力してほしい。
(滋賀中央信用金庫 沼尾理事長)

依頼②:古民家活用

兵庫県加西市では「北条旧市街地元気なまち再生事業」を 進行中であり、今後古民家活用に取組んでいくにあたり**先進 的な取組事例からノウハウを学びたい**ため、取組事例を紹介 してほしい。



(神姫バス【加西市委託業者】

依頼に応じた企画概要







②古民家活用については、一昨年に当局が実施したセミナーに参加していた谷口工務店が大津市内で古民家を活用した宿泊施設の開業に向けて取組んでいるため、加西市の事業者を繋ぎ古民家活用のノウハウを学べるよう、初の試みとして現地見学ツアーとセミナーを企画。併せて古民家を活用した宿泊施設を滋賀県内で広げていくため、地域の多様な業種の事業者とワークショップを行う場も設定。

③また歴史的資源を観光振興に活用するという点で①②併せて、神姫バスより、**地域外からみた滋賀県の魅力と観光資源の活かし方**についてアドバイスを受ける機会を設定。

午前中:現地見学会

大津百町商店街 大津町屋ホテルプロジェクト

加西市から古民家活用に関心のある事業者等約30名が大津市へ。古民家活用のノウハウを学ぶため、現在谷口工務店が手掛ける『大津百町商店街 大津町家ホテルプロジェクト』の現場を視察。



改装中の古民家

まず、大津駅徒歩1分にある古民家をリノベーションした『大津百町スタジオ』で谷口工務店の谷口代表からプロジェクトの概要説明を受けたあと、実際に現場へ行き、現在ホテルへと改装中の



傷んだ古い柱に新しい材を 継ぐ伝統的な技「根継ぎ」

古民家を見学しました。









大津百町ホテルプロジェクトとは…

CONCEPT 駅前の古民家「大津百町スタジオ」をサービスカウンターに

LOCATION商店街を丸ごとホテルにINTRODUCTION商店街の空き店舗、空き家をホテルに改装

JR大津駅から徒歩10分ほどにある、アーケード商店街。伝統的な建築物が多く残るも、現在は空き家も多くかつての活気がない。そんな町に活気を取り戻すべく、**観光客を呼び込む一棟貸しのホテルへ改装しようとするプロジェクト**。

第1部:セミナー その1

『お宝まちなみ、河五八(かごやん)!』

◎河五八(かごやん)とは・・・

何が滋賀県の課題だろうかと考えた学生たち。

大学での講義を参考に、人口減少が地域の 課題で、観光振興に目を向け考えたアイデア。

滋賀県には4つの「伝統的建造物群保存地区」が指定されており、そのうち3地区が湖東地域に集まっており、彦根市【河】原町・芹町地区、東近江市【五】個荘金堂地区、近江八幡市【八】幡地区を結んで新しい観光コンテンツとする提案。

びわこ学院大学短期大学部 ライフデザイン学科 キャリアデザイン学部 丸山ゼミ(1年生)



当該コンテンツが定着すると観光客の増加、既存インフラの利用者増加、そして地域の活性化、特に小規模店舗再生に寄与することを目指すもの。



彦根市<mark>河</mark>原町・芹町地区



東近江市五個荘金堂地区



近江八幡市八幡地区

第1部:セミナー その2

『地元企業が行う地方創生の取り組み 〜大津百町商店街 大津町屋ホテルプロジェクト〜』

講師:株式会社 木の家専門店 谷口工務店 代表取締役 谷口 弘和 氏

◎育てる文化を作ってきた会社

ハウスメーカーの下請け大工時代、職人がお客さんの顔を見ずに仕事をしていることに違和感を感じた。造り手と住まい手の顔が見える家づくりをして、昔の棟梁のように「尊敬される大工」を育てるため、起業した。

現在、大工という職人は不足しており、かつ、大工を育てる仕組みづくりが必須。当社では、大工でそれぞれチームを作り、お客さんに喜んでもらうための環境を整えた。



大工は、現場監督や現場でのお客様案内なども担える人材に育ってきた。

◎プロジェクトを実行するためのポイント

自社だけでまずやるということを考える。助成金ありきでやると、それがなくなったときに進む方向が非常に弱くなる可能性がある。

ただし、企業として、あくまでもボランティアではなく、ビジネスとして必ずまちおこしと繋げていく。まずは、自分がある程度の形や夢を描き、**行動を起こすことにより「呼び水」となれば成功**。

また、今回のプロジェクトに関するコンサルティングは、自遊人の岩佐氏に業務委託しており、結果自分たちの収益は低くなるが、街並みや古民家を再生してホテルが流行る方が、自分たちの理念である「まちを起こす」に繋がると考えている。

◎新たなプロジェクト、クラフトマンカレッジ

今後の展開として、**大津の街を学校にしようというプロジェクト**を考えている。ポートランドの街のように、若い色々な業種の職人たちが大津の空き家を活用してコミュニティを作ってものづくりをしていく。空き家を若い人に安く貸し出し、建物を直しながら運営する。

頑張った人は、いずれ独立して空き家に住み、自分たちの商売を始める。職人の聖地、イタリアのミラノサローネならぬ「オオツサローネ」として、世界中から人が集まる街を目指したい。

新しい文化的魅力を生み出し、琵琶湖の活用などうまく回れば、「新しい価値」と「伝統」が交じり合う街として注目されるはずだ。





講師資料より

第1部:セミナー その3

『旅行会社の目線でみる古民家活用方法と河五八の活かし方』

講師:神姫バス株式会社 事業戦略部地域

マーケティング課 課長 中野 悠文氏

◎まずはトライすること

新しい観光コンテンツ「河五八」。一度トライし、実際に動かすことで、上手くいくところはよし、上手くいかず浮き彫りになった課題をどうブラッシュアップして次につなげるかという視点で前に動かしてほしい。



うまくいけば神姫バスのバスツ アーでの活用も可能と思っている。

◎大津の街をホテルに

谷口社長の言葉の中で一番印象に 残ったのが、「地域で存在価値のあ る会社、必要と思われる会社を目指 す」。「ビジネスをして街の活性化 につなげる。」というところ。

今後の自社の指針となる話をたく さん聞けて、本当にうれしい。

◎兵庫県から見た滋賀の魅力

滋賀県を目的地とするツアーは、安定した人気商品。季節ごとに若干コースは違うが、近江牛は外せないコンテンツであり、**兵庫県から見ても魅力ある**もの。 値段は高いが沖島を訪ねるコースも設定。湖に島が浮かんでいて、なおかつ、 そこに住んでいる人がいて、独自の文化をしっかり守っているという島は、本当 に貴重。しかし、沖島という島が琵琶湖にあることはあまり知られていない。

◎講師からのリクエストで参加者に聞いた滋賀のいいところ

- ・冬には長浜・湖西地区で「かもすき鍋」があります。近江牛に負けないうまさです。冬しか食べられないのも魅力です。
- ・冬だとすっぽん料理も多く出す店があります。
- ・おごと温泉は京都に最も近い温泉旅館街です。バス団体客向けに最適です。



びわこ学院大学



びわこ学院大学 短期大学部 中野氏 短期大学部 丸山教授

<mark>第2部 「ワークショップA班」の模様</mark>

発表いただいた学生、事業者の方々に参加いただき、 「地元の観光資源を活かすアイデアの実現に向けて |様々 な可能性を模索しました。



びわこ学院大学 短期大学部 井上氏



びわこ学院大学 短期大学部 田川氏



彦根観光協会 大塚主事補佐



株式会社まっせ 田口マネージャー



びわこビジターズビューロー 中村氏



近江ツーリズムボード 小島氏

『河五八』の魅力"

- (学伝統的建造物保存地区に焦点を当てた観光コ ンテンツは、今までになく新鮮。
- ☞大学生のアイデアであることが魅力的。自分 達が訪れて面白いと思ったところをフォーカ スする感覚は大学生ならでは。

『河五八』コンテンツの課題"

(すその土地の暮らしとの調和をいかにとるか。 まちの人たちに自発的に受け入れてもらえる、 **自主的に協力してもらえる体制**をいかに作る かが課題。

"『河五八』の売り出し方"

- ② 3地区を、それぞれ「点」から「線」につな ぎ、「面」にして売り出すことが必要。その 結果、物理的な距離はあるものの、心理的な 距離は無くなっていく。
- ☞最大市場の東京では、関西と言えば京都 のイメージが先行している。今一番熱い市場 は名古屋。名古屋であれば、日帰りツアーな どの企画も可能。
- ②ネットが発達する現代において、「そこでし か味わえないもの」が大きな魅力。地元のお ばあちゃんやボランティアガイドなど、人と **のつながりの中で新しい観光の形**が生まれる。

"『#河五八』"

⑤ S N S の口コミや、「インスタ映え」を求めて来る観光客が多い。「#河五八」で、S N Sでの集客も企画してみてはどうか。

"『河五八』実現へ向けて"

- (デマップは、紙媒体で発信するか、Webで発信するかは検討が必要。色々な補助金を活用しながら、進めていきたい。
- ③東京の「谷根千」人気もスタートは地元主婦の情報発信から。受け入れ体制などハード面の整備も重要だが、それよりも大学生ならではの視点で、地域の魅力を情報発信し続けてほしい。それを大人たちが支えることはいくらでもできる。



近江鉄道株式会社 藤総合企画課長



近江鉄道株式会社 髙橋鉄道部次長



東近江観光協会 清水氏



NPO法人五環生活 田中代表理事



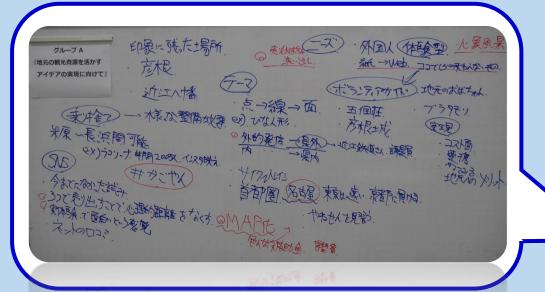
近江八幡観光物産協会 田中事務局長



司会:安達所長 (彦根商工会議所 中小企業相談所)



発表:上野事務官 (大津財務事務所)



株式会社木の家専門店 谷口工務店 谷口代表取締役



_____ 大津市 エミリー ハモンド 国際交流員



琵琶湖汽船株式会社 川添常務取締役



滋賀県立大学 近江楽座 寺前氏



滋賀県立大学 近江楽座 莛井氏

<mark>第2部 「ワークショップB班」の模様</mark>

谷口講師、中野講師に参加いただき「古民家を活用したまちづくり」について地域の事業者と様々な議論を行いました。

"古民家を活用したまちづくり"

☞「古民家再生」は、日本全国どこでも取り組まれている。古民家を作るのは簡単だが、

「作ってからどう活用していくか」という明確なビジョンを持つことが大切。

- (学古民家を活用した魅力ある「空間」をどう作り出すかが大切。コンテンツの構成、組み合わせにより、滞在型の観光地へ。
- ⑦家賃など、資金面で起業家の妨げになること も。家賃補助制度など、行政の力も必要。

"おもてなしの三要素"

- ⑦人を呼ぶ、おもてなしをするということは、 「お客様を迎える」ということ。
 - ①食べるところ、②泊まるところ、③出すところ(トイレ)、この3つの「ところ」が整わないと、お客様は迎え入れられない。

"地元の方々との関係性"

- ③外からよそ者が入ってくるという感覚が住む 人にとっては受け入れがたいもの。景観や生 活環境など、地元との調整は必要。
- ⑤外から来てもらうことばかりではなく、住む 人が利用しないと、本当のまちづくりとは言 えない。住む人が良いと感じ、発信してもら える空間づくりが必要。

"滋賀県の観光"

- ②**外国人の中では、大津の知名度はまだ低い。** 京都よりも古いまちなので、その歴史や文化 をイメージしやすい情報提供を。
- (京京都へ来た外国人は、皆同じ観光地を巡り、 同じ体験をしている。大津では、他の観光客 と全然違う体験ができる。
- ⑦滋賀県の宿泊者は京都・大阪で泊まれなかった人たちというイメージがあるが、実は外国人からは「琵琶湖の見える宿」を要望されることもある。「滋賀県の宿なら琵琶湖が見える!」など、ロケーションの良さを売りにできるのではないか。
- ⑦観光地が駅から遠いのが難点。逆に「1日では回り切れない滞在のまち」として宿泊を促す発信の仕方ができるのではないか。



神姫バス株式会社

中野地域マーケティング課長



株式会社招福楼 中村代表取締役



株式会社Wallaby 宮村代表取締役



司会:左向係長 (大津財務事務所)



発表:西村事務官 (大津財務事務所)

。古民家活用

- ・おもてなし…お客様を2里える(泊まる食べる、まけ)
- ・古民家再生は、1年スからどうしていくかっというにううこかけかり
- ・見まかある空向をどう作るか、(コンテンツ(体験)の組合せ)
- · 滋賀県、左使、た観光(琵琶湖を使たい十、文化合)
- ・田丁の再生のためには、「人が住立こと」」ももあんにも「良い」と思われるように
- 、家賃が高いと、若い走建家のさまたげに(家賃補助制度)
- ,外国人の中では大津」の矢の多度低い。 し、歴史文化など、外国人は代がしてい情報提供を、
- ・地元の人のとの関係性、地域の特性、文化を治かす、
- ・観光地就達い ⇒逆に「滞在のお」といたり上む、

家を活用した

○ セミナー冒頭で感謝の声をいただきました!

今回のセミナーの冒頭の開会挨 拶では滋賀中央信金の沼尾理事行 から「地方創生を大学目線で行う 滋賀県立大学COC+推進室、地 方創生コンシェルジュである生である 財務事務所、そして地方創生においる も立までにない取れている当金庫の3者が可え を入し主催した今までにない取れている 1位を受賞したもので、何とかせ に出せないか、がと考え、一番実 現してもらえそうなのが大津財務 事務所。」という、嬉しい感謝の 声をいただくことができました。



○ 若手2名がワークショップのサマリーを実施!

第2部のワークショップでは、講師をはじめ、滋賀県内の宿泊業者、旅行業者、自治体、金融機関、大学生など、多様な人材が集まって、滋賀県の観光振興について意見を交わしました。参加者である大津財務事務所としても少しでも役に立ちたい一心から、今回若手2名がワークショップ終了後各班のサマリーを実施しました。初めての試みで緊張感一杯と思いきや、即興とは思えないまとめぶりで上手く締めることができました。

○ 複数のメディアによる報道

新聞やテレビをはじめとする 各種メディアに取り上げてい ただきました!

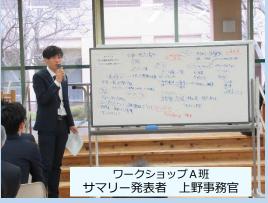
びわ湖放送

京都新聞中日新聞ニッキン

本企画でお世話になった方々、誠にありがとうございました。 滋賀県立大学COC+推進室のみなさま 滋賀中央信用金庫 のみなさま、ワークショップ参加のみなさま

TEAM『近江招人』

下井大津財務事務所長、田中、堂本、神山、左向、和田、平井、 西村、上野、西本、小田 10





近畿財務局・大津財務事務所では今回 の企画のように、地方創生に 向けた取組みを推進しています。 ぜひ、あなたの地域でも活性化に 向けたお手伝いをさせてください。 お問い合わせは以下まで! 077-522-3765 大津財務事務所